

# 令和7年度 出前講座一覧<事業政策マネ>

No	講座名・講座内容	講師所属・役職	講師名	講座時間	講座対象								出前範囲	WEB対応	ご準備いただきたい機材	
					小学生 低学年	小学生 中学年	小学生 高学年	中学生	高校生	大学生	社会人	その他				
3	<p><b>国総研の仕事</b></p> <p>国土技術政策総合研究所(国総研)では、社会や経済活動、国民の生活を支える基盤となる施設や設備(上下水道、河川、道路、建築・住宅等)であるインフラ(インフラストラクチャー)に関する研究を行っています。インフラにはどのような役割があり、どのような研究を行っているかを紹介します。キャリア学習として、他の研究所などと連携した紹介も可能です。</p>	企画部 主任研究官	濱田 悠貴 長屋 和宏	45～50分(ご要望に応じて調整します)	○	○	○	○	○	○			全国	○	パソコン用プロジェクタ	
31	<p><b>交通ビッグデータ等の新技術を活用した、都市のコンパクト化・ウェルビーイング向上に向けた取り組みの考え方</b></p> <p>携帯電話基地局データなどの信頼性の高い「交通ビッグデータ」の活用により、都市における人の流動が高度に把握・予測できるようになってきており、また一方で、自動運転などの新技術により、持続可能な全く新しいモビリティネットワークが計画・構築できようになっているなど、多様なニーズを踏まえた暮らしやすい都市づくりに貢献するツール環境が近年急速に整ってきています。そこで、これらの要素技術の可能性とあわせ、持続可能な都市のコンパクト化・ウェルビーイング向上に向けた取り組みの方向性についてご紹介します。</p>	都市研究部 都市施設研究室 室長	新階 寛恭									○	行政関係者 民間技術者	関東周辺	○	パソコン用プロジェクタまたは大型モニター(できればHDMI接続)、レーザーポインタ
34	<p><b>都市建築の経済と時事問題</b></p> <p>都市建築の経済(経済的観点からみた都市建築・社会資本等)に関連する時事的課題としてのトピック(公共投資の動向・効果、都市の競争力(ランキング等)、不動産価格動向等)を採り上げ、各種経済報告(月例経済報告、GDP統計、日銀短観や各種経済指標等)などとの関連を見ながら社会経済の動向を考察します。</p>	都市研究部 都市計画研究室 特任研究官	小俣 元美							○			全国		パソコン用プロジェクタ	
36	<p><b>まちなかの各種パブリックスペース・モビリティの役割と有機的連携によるエリア価値向上の可能性</b> ～地域資源を活かしたライフスタイル提案型のアーバンデザイン～</p> <p>まちなかの街路、広場、公園、河川、公共空地等のパブリックスペースは、誰に対しても開放された空間であり、人々の生活動線、多様な活動の拠点、周辺の土地利用促進、日々の営みの中での都市文化・地域性の醸成への貢献など、滞在者にとって重要な役割を担っています。また、まちなかのモビリティも重要で、近年はBRTやグリーンズローモビリティなど、様々な地域の資源や人々を繋ぐ新たな公共交通が普及しつつあります。それぞれの施設・機能の特性と、近年の全国における官民連携による空間再編プロジェクトの動きをふまえつつ、物理面、活動面、心理・社会面等からみた具体の役割を紹介するとともに、今後の効果的なまちづくりの展開として、有機的連携効果の活用方策と、継続的な実施による波及・相乗、そしてエリア価値向上への展開可能性について紹介します。</p>	都市研究部 都市施設研究室 主任研究官	小笠原 裕光		○	○	○	○	○	○	○		一般市民 行政関係者 まちづくり団体 民間技術者 など	全国	○	パソコン用プロジェクタ
37	<p><b>ABP Challenge(Activity Based Planning Challenge)</b> ～新たな交通行動分析手法を活用した都市交通プランニングの実現戦略～</p> <p>国総研では、都市生活者の個人単位の1日の活動・移動を再現し交通行動の将来シナリオ分析等が可能なアクティビティ・ベースド・シミュレータ(ABS)を活用し、Well-beingと持続可能性を両立した都市交通のプランニングを実現するため、全国の自治体・民間・大学等の関心層と取り組む共創プロジェクトに取り組んでいます。プロジェクトの解説と現在の到達点、そして近未来のマスタープランニングのあり方について紹介します。</p>	都市研究部 都市施設研究室 主任研究官	小笠原 裕光							○	○		一般市民 行政関係者 まちづくり団体 民間技術者 など	全国	○	パソコン用プロジェクタ
38	<p><b>多様なストック効果等を考慮した公共事業評価に向けて</b></p> <p>防災、減災、医療、安全、定住、産業、雇用、所得等、既往事業における多様なストック・フロー効果の実例を紹介しつつ、多様なストック効果等を考慮した公共事業評価手法に関する研究開発等の取組を紹介します。</p>	社会資本マネジメント研究センター 社会資本マネジメント研究室 室長/主任研究官	松田 奈緒子 田嶋 崇志	約1時間								○	行政関係者	全国		パソコン用プロジェクタ
39	<p><b>多様な入札・契約方式の活用に向けて</b></p> <p>国土交通省で多く採用される総合評価落札方式の他、技術提案・交渉方式、事業促進PPP、災害復旧における随意契約・指名競争入札、フレームワーク方式等、多様な入札・契約方式の概要、活用事例、導入にあたっての留意点等をわかりやすく解説します。</p>	社会資本マネジメント研究センター 社会資本マネジメント研究室 室長/主任研究官	松田 奈緒子 田嶋 崇志	約1時間									行政関係者 建設業界関係者	全国		パソコン用プロジェクタ
40	<p><b>積算の合理化と今後の方向</b></p> <p>公共土木工事の契約条件や価格算定条件の明確化・合理化を図るために構築し運用を行っている「新土木工事積算大系」や近年の積算の合理化の取組について解説します。また、要望に応じて「施工パッケージ型積算方式」など重点的に説明します。</p>	社会資本マネジメント研究センター 社会資本システム研究室 室長/主任研究官	堤 達也 櫻井 真	1～2時間程度									行政関係者 など	全国		パソコン用プロジェクタ

No	講座名・講座内容	講師所属・役職	講師名	講座時間	講座対象								出前範囲	WEB対応	ご準備いただきたい機材	
					小学生 低学年	小学生 中学年	小学生 高学年	中学生	高校生	大学生	社会人	その他				
41	ICT活用工事に関わる基準類及び施工データ活用による現場マネジメント(ICT施工Stage II)の解説 本講座では、これからICT導入を検討されている自治体・施工会社の方や、ICT導入で変わる建設産業に興味のある学生等を対象に、ICT活用工事に係わる基準類の内容や改定経緯、施工データの見える化による施工管理の改善の取組、ICT導入で期待される効果等について説明します。 なお、ご要望により、重点的に説明する内容を調整します。(内容により2名で対応する場合もあります。)	社会資本マネジメント研究センター 社会資本施工高度化研究室 室長	杉谷 康弘	約1時間							○	○	行政関係者 建設業界関係者 など	全国	○	パソコン用プロジェクト、(パワーポイントをインストールしたパソコンがあれば、なお良い)
		社会資本マネジメント研究センター 社会資本施工高度化研究室 主任研究官	桐井 健一 二宮 建													
42	BIM/CIM原則適用による3次元データの利活用 本講座では、令和5年度からBIM/CIM(Building/Construction Information Modeling, Management)の原則適用に従い、国土交通省が取り組んでいる3次元モデル成果物の作成方法の明確化やBIM/CIM活用業務・活用工事に関する効果について、事例や動画・デモを交えながらわかりやすく説明します。 更に、令和6年度までに策定、改定された直轄土木業務・工事における BIM/CIM 適用において実施又は参照する基準・要領等についても、解説します。	社会資本マネジメント研究センター 社会資本情報基盤研究室 主任研究官	鈴木 淳史	約1時間						○	○	行政関係者 建設業関係者 など	全国	○	パソコン用プロジェクト	
43	建設分野におけるカーボンニュートラル対策(建設工事現場からの二酸化炭素排出量の把握手法について) 地球温暖化対策のため「二酸化炭素排出量を2050年までに実質ゼロにする」という「カーボンニュートラル」の達成に向け、世界各国、各分野で様々な対策が進められています。日本の二酸化炭素総排出量の約1割を占めると推計されている建設分野においても対応が求められています。 このため国総研は、建設現場からの二酸化炭素排出量を定量的に把握する手法、「インフラ分野における建設時のGHG排出量算定マニュアル(案)」を2024年3月に策定しました。マニュアル(案)の基本理念や算定の考え方、今後の改定見直し等について紹介します。	社会資本マネジメント研究センター 建設経済・環境研究室 主任研究官	原野 崇 布施 純									行政関係者 建設業関係者	全国	○	パソコン用プロジェクト	
44	都市空間の魅力の増進(居心地の向上や活気・賑わいの創出) 都市のサステナビリティや地方創生・都市再生・中心市街地活性化等のために、都市空間の魅力を増進(居心地の向上や活気・賑わいの創出)することへの注目が高まり、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり～ウォーカブルなまちなかの形成～」等の取り組みが広がってきています。オープンスペースの居心地の向上や活気・賑わいの創出、補助金に依存しない自律的継続的な民間主導まちづくり活動の支援の仕方、歩行空間の「利用」と「利用を前提としたデザイン」、デザインと事業性の両立などに関する基礎的な考え方について、「十二表法」(紀元前450年頃)から現代まで約2500年間の主要文献をレビューし、国土交通省・UR都市機構・実務者・建築学会・大学・大学院デザイン専攻者等への講義等を行ない、国土交通省「プレイスメイキング・シンポジウム2014」「ストリートデザインガイドライン(2020年3月)」等を政策企画立案・技術支援した担当者をご紹介します。 初學者向け(90分程度、WEB開催可)には筆者レポートを用いるほか、都市デザインに係る行政関係者や社会実験を行なう都市計画コンサルタント等向け(1.5～2.0日、対面)にはプレイスメイキング・景観工学等を社会実装するための基礎的事項に係る座学・実技指導、大学・大学院のデザイン専攻者向け(1コマ程度、対面)には、ウィトル＝ウィウス『建築書』(紀元前30年頃)以降のバビロニアのデザイン関連主要文献・論文(芦原義信、ヤン・ゲール、北原理雄、クリストファー・アレグザンダー、イアン・ペントレイ、佐藤圭二、渡和由、鈴木俊治、デビッド・シム、島原万丈など)、英国・NYCのデザインガイドライン等を課題図書とし、実際の記述を確認しながら、具体的な形質・寸法、社会実装の事例、経済効果等について学び、実務に携わるための総合的視点を養います。	社会資本マネジメント研究センター 建設経済・環境研究室 室長	富田 興二							○	○	パブリックスペース・パブリックライフ関係者 都市デザイン関係者 行政関係者・研究者・教育者・出版関係者 大学・大学院デザイン専攻者	全国	○	パソコン、パソコン用プロジェクト、インターネット通信環境、レーザーポインタ(対面の場合)  参考資料:初學者向け筆者レポートとして、島原万丈、富田興二ほか共著(2015)「Sensuous City[官能都市]—身体で経験する都市:センシユアス・シティ・ランキング」(9. 都市政策の立脚点は”アクティビティ”である)((LIFULL HOME'S総研HP <a href="https://www.homes.co.jp/souken/report/201509/">https://www.homes.co.jp/souken/report/201509/</a> )からダウンロード可)	